

中学生担当支援員ミーティング

開催日 2024年6月27日(木) 17:50~18:30

会場 太洋中体育館2階会議室

グループトーク報告書

*青ペンで大野のコメントを入れました。

数学グループ

出席者 平井、中里、柳田、清田(記録)

1. 支援員と生徒のマッチング

① 生徒を同時に2名以上担当する場合には、生徒のレベルを合わせて欲しい。

② 特徴のある生徒の受入は、対応できる支援員が居ないと難しい。

→現在登録の支援員でも対応できない生徒は参加を受け入れていません。

③ 基本的に勉強をやる気のある生徒であって欲しい。

→申込みの段階では、全生徒のやる気を確認していますが・・・。

2. 支援員を長く続けて貰うためには

① できればなるべく早い時点で、支援員の声を聞き取ることが必要。普段から支援員とのコミュニケーションが大切。

→聞き取るのは誰ですか？ 支援員とのコミュニケーションは誰が行うのですか？

② 学習支援の一環として、生徒のモチベーションを引き上げるような支援ができると長続きする。

3. 45 分の学習時間

① 決められた時間を有効に使って実施するしかない。

② 軽食の時間を予めアナウンスするなりして、時間の管理をしっかりする必要がある。

→引き続き食堂の担当者で時間の管理をしますが、学習支援員も生徒への声掛けをお願いします。

英語グループ

出席者 下田、福本、草島、伊藤、雨宮、廣庭(記録)

1. 新加入支援員のコメント

・ 福本 寺子屋の存在意義というベースの質問あり。

→ 廣庭、雨宮： こどもの居場所の確保、学力の向上。

→ 草島： 原点はこどもの支援。こどものうちからしっかりと生活、学習等をサポートしていれば、生活環境に関係なく将来的にもしっかりした子が増えていくはず。

・ 下田 いきなり生徒に学習を教えることになったが、昔の教科書と全く違っており、とまどった。(授業の内容を良く確認する必要がある。)

→ 草島： 年末に小学生担当も含めた支援員達とのミーティングがあるので、そこで様々な情報交換が可能。

2. マッチング

・ 草島： 生徒の特性を確認してから担当した。困ったときは大野さんや他の支援員たちに相談する。

- 福本 生徒との会話につき、どこまで聞いたら良いか不安。
→ 伊藤：寺子屋の情報を確認しながら対応。基本的にはこどもは話したくないことは話そうとしない。
- 雨宮 ほとんどの生徒はどちらかと言うと英語が苦手。それでも英語をやりたいと言っているので、少しでも好きになるようにさせたい。
- 伊藤 レベルが違う2人の生徒を担当する場合、使う教材を考える。基本は教科書に沿って進める。

3. 新支援員への助言

- 草島 他の支援員にミーティングの時も含め積極的に相談して欲しい。
- 福本 ゴールはどこを狙うべきか？ また自分たちの達成感はどうやれば？
→ 伊藤、雨宮 少しでもいいので、生徒のモチベーションのアップ。学力の向上。

4. 45分の学習時間

- 現状で仕方ない。
- 食事の時間をしっかり区切る。(現状は、だらだらと長引いている。)

英語グループで話し合われたことに対しては、お互いに回答されている内容以外のコメントは特
にありません。

以上